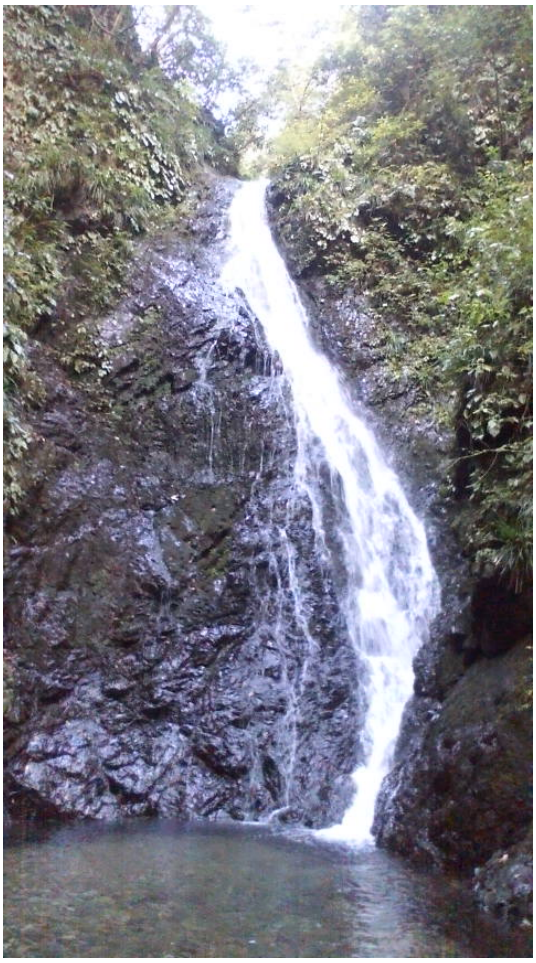


（雄　滝）　金剛滝　（雌　滝）

金剛滝（夫婦滝）

おおむかし、緋鯉と真鯉が清流の奥山に夫婦仲良く住んでいた。
自然が壊され、川が汚れだした。
夫婦の鯉は、清流を探して川上へ川上へと旅に出た。
何年も何年もかけて泳ぎ続けた。
すると、魚止めに差し掛かった。
魚止めを越えようと試みた。気が付くと、夫婦鯉は年を拾いすぎていた。
終の栖と思い、ここを越えなければと何度も繰り返した。
すると、一筋の光明が・・・
夫婦鯉はみるみるうちに龍になった。
龍は最後の力を振り絞り試みたが：
ここで力尽きた。龍の目から涙が溢れ出た。
これを見ていた不動明王は、龍を助け安住の清水に導いた。
今でも雄滝雌滝となり、隧道から手を繋ぎ合い流れている。

◇散歩のみどころ

今熊バス停から凡そ四㎞の行程。途中から起伏のある山道を登り降りするハイキングコースである。

旧小峰峠の入口を右に見ながら秋川街道を五日市方面へ歩き、新小峰トンネル入口手前の道を左へ今熊神社へと向かう。少し歩くと、目の病を治すという正福寺へ。この寺は、獅子舞、山桜の巨木などでも有名。路傍の道標や地蔵様を拝しながら、三叉路に。三叉路を左へ暫し歩くと今熊神社に着く。三つ葉ツツジや獅子舞で有名。四十分程の登山で眺望の良い今熊山(呼ばわり山)に着く。山頂から九十九折りの山を一時間程下り、川に出る。川を五、六分上流へと歩くと、雌滝。岩の中を穿った隧道を潜ると雄滝である。市内随一の美しさと荘厳さを満喫して頂きたい。川から五日市への分岐点まで急坂を登り、百番観世音の碑を拝し、**変電所経由で**戻り今熊バス停**で解散**。

①川口川

上川町の今熊山を源として東南に流れ、川口町を経て中野上町で浅川に注いでいる。長さ十五㎞、流域十七・六㎢。北側には加住丘陵、南側には川口丘陵が連なり、川沿いに秋川街道が並走している。

縄文時代の生活の跡がみられ、弥生時代のものとしては、川口川の中流から下流の河岸段丘に農耕集落の跡が見つかっている。

古墳時代、古代国家が誕生し律令制が施かれると、武蔵国多摩郡に編成された。さらに、多摩郡が十郷に分かれた。その一つが川口郷である。日本で一番古い、十世紀に編纂された「和名類聚抄」にも「川口郷」の記述がある。中世に入ると、武蔵七党の一つである西党すなわち川口氏が活躍してくる。

ちなみに「かわぐち」は「河内」ともいわれているが、その後川口の地名が定着してくる。又、川口川流域には神社仏閣が多く見られ、仏教や神道信仰の深いことが伺われる。

川　口　川

川口川上流

②小峰峠と小峯隧道

上川町と、あきる野市（旧五日市町）留原との境にある峠。

高さ二百八十m。この峠に小峯隧道と、新小峰トンネルが平行して作られている。この隧道は大正元年（一九一二）に開通したが、現在は車の通行を禁止している。

旧小峰峠

小峯隧道　（旧小峰トンネル）

新小峰トンネル

共に八王子側から

●道標

「今熊山登山口」バス停で降りると、右側に新小峰トンネルが見える。

今熊神社へ行く道の左側を三十m程行くと、右側に高さ五十cm、幅二十cmの御影石の道標がある。それには「三百米」と刻まれている。さらに緩やかな道を登って行くと、「五百米」「七百米」の道標が立っている。これは信徒達が、修行のために今熊山や金剛の滝へ行く道案内として建てたもの。

ちなみに、新多摩変電所から三十分程尾根道を歩いたところにも、「百番観世音」と刻まれた道標がある。高さ五十cm、幅三十cmほどの石造。側には、「広徳寺方面又は金剛の滝へ」の新しい標識も立っている。

道　標

③今熊野山正福寺

上川町

宗派　真言宗豊山派
　　横沢大悲願寺末
本尊　薬師如来
開山　重円上人
開創　貞治三年（一三六四）
　多摩四国八十八霊場第六十一番札所。

　宝永二年（一七〇五）と天保十五年（一八四四）、火災により堂宇を焼失した。江戸期には今熊神社の別当であった。明治初年に、上川町の如意輪寺と合併している。以前は、現在の場所より二百m西に位置していた。特に鳳明法印が中興した天保から安政年間（一八三〇～五九）には、参拝者が多くなり、麓には茶屋や旅籠が軒を連ねていたという。

　寺の向拝に配された龍や獅子の彫刻はすばらしい。又、境内裏山の樹齢八百年以上ともいわれる山桜の巨木は、春には見事な花を咲かせる。夏には獅子舞が寺の境内で舞われ、その後、今熊神社に奉納される。

正　福　寺

向拝の天井に描かれた龍

見事な彫刻

目の病を治すための絵馬

大型の絵馬

樹齢 800 年の山桜

宝篋印塔と六地蔵

●石灰山

正福寺裏山を「いしやま」「あくやま」と呼んでいた。この付近ではかなり古くから石灰が作られていが、いつから始められたかは不明。

昔は野伏焼きといって、木の枝や薪を積み、その中に石灰岩を入れて焼いた。昭和になると近代的な「かま」を使い、燃料も石炭やコークスを使ったので良質の石灰が出来るようになったという。

正福寺裏山方面

●道標碑と地蔵様

正福寺入口の碑がある道を今熊神社方面に三分位歩くと、右側に一・五m程の道標が立っている。

表には

「左　いまぐ満山　施　小津邑
　　みち　主　青木卯之助」

裏には

「安政二巳卯歳　刻
　九月吉日　鳳明」

道　標　表

道　標　裏

と刻まれている。ところが、当然右への説明書きがあってもよいのにきれいに削り取られている。何らかの訳があったのか今となっては不明。

また道標碑脇の屋根囲いの中には青面金剛の庚申塔、地蔵や舟形地蔵などが安置されている。しかも、これらはみな北向きに置かれているのである。さらに、近くには石仏などもあり、古くは、この前には古道が通っていたとの説もあるが、不可思議な一隅といえる。

庚申塔と地蔵尊

石仏など

●キリシマツツジ

上川町の田中家にあるキリシマツツジは樹齢三百年以上。太さは、根周り二m、八本立ちで、高さは三m。枝張り東西四・三m、南北四・五mあったが、本幹は枯死している。残念ながら、現在は八王子市の天然記念物指定を解除されている。

田中家の庭園

キリシマツツジ

●今熊野山道の碑

正福寺から、さらに今熊神社方面へ暫く歩くと、三叉路に辿り着く。三叉路の正面に高さ二m幅三十cm程の大きな道標が建っている。

右戸倉檜原道
正面　左今熊野山道
左側　弘化三年丙午二月吉

と刻まれている。

今から百六十余年前の碑であるが、石碑にはひびが入っており、四隅を鉄板で囲ったうえに周りを二重の針金で保守してあり、何とも痛々しい。

道　標

道　標

道標のある三叉路
左　今熊神社

④今熊神社

上川町

勧請　熊野本宮大社
祭神　建速須佐之男命
（たけはやすさのうのみこと）月夜見命（つきよみのみこと）
創建　正平元年（一三四六）ごろ
例祭　九月九日。

正平元年（一三四六）ごろ熊野本宮大社を畳ヶ原に勧請したと伝えられている。貞治三年（一三六四）別当正福寺僧重円が社殿を造営し、今熊野三社大権現と称した。明治元年（一八六八）今熊神社と改称した。さらに、明治四十二年（一九〇九）には川久保の天満神社を合祀、境内は稲荷神社も祀っている。

尚、例祭には家出人足止の神事、獅子舞、今熊太鼓が奉納される。

社殿は、権現造りと思われる。千鳥破風、鰹魚木、千木それに懸魚などが実に素晴らしい。

今熊神社

今熊神社入り口の鳥居

由　緒

社　殿

●今熊神社の獅子舞

八王子市指定文化財。毎年八月最終日曜日（往時は九月九日）、今熊神社祭礼に奉納される。

室町期、正福寺創建の時に村民の娯楽として始められたという。以来、現在まで継承されている。

祭礼時には、正福寺で初手庭、中庭、終庭の三庭が舞われる。その後、今熊神社に移り、境内で奉納の舞いが舞われるのである。

獅子頭は高麗犬形式のもので、大頭、中頭、小頭（雌獅子）の三頭の獅子と、笛を持ち花笠を付けた六人、幣負い一人により構成されている。

伝承によれば、貞治三年（一三六四）正福寺の別当重円法師が三匹の獅子を購入したのが始まりとか。弘化から嘉永年間（一八四四～五三）に最も栄えたという。弘化二年（一八四五）の今熊神社開帳のときは、代官江川太郎左衛門が参拝し、獅子舞を見物したと伝えられている。

獅　子　舞

終庭の舞

●今熊山のミツバツツジ

毎年四月中頃より、今熊山山麓ではミツバツツジが一斉に咲き始める。

地元の人達、自然愛好家、それに家族連れも加わり植えられたもの。千五百本以上の花が咲くと、山麓一面明るい紫色に覆われ、ツツジの絨毯と化し、まことに圧巻。今熊山が花山になる五月中頃まで楽しむことができる。

ミツバツツジ

展望台への道

ミツバツツジ

●素晴らしい眺望

今熊神社下社からゆっくり登り始めて三十分、今熊山第一展望台に着く。そこから十分ほど登ると第二展望台だ。どちらも眺望が素晴らしい。ここで小休止。そして更に登ると、登山道の右手、朱塗りの今熊開運稲荷に着く。文字どおり開運と登山の安全、無事を祈るお稲荷さまである。

お稲荷さまを過ぎると今熊山頂上（別名呼ばわり山）に着く。ここに奥社がある。

見晴らし台から五日市方面を望む

奥　社

今熊開運稲荷社

⑤今熊山（呼ばわり山）

上川町の西部にある山。高さ五百五m。別名今熊野山、又は、呼ばわり山といわれる。

大昔、安閑天皇（五三一～五三五）の后妃が神隠しに遭い、今熊山で呼び戻したという「呼ばわり伝説」は有名である。

「〇〇を出しておくれやなぁ」と太鼓を叩いて名をよびながら、山頂の今熊神社の周りを三度回ると行方不明者が戻ってくるという。天狗様が、身代わりになって行方不明者を探してくれるというのである。

山頂からは、奥多摩、秩父連山、奥高尾、丹沢山系そして富士山など、眺望がすばらしい。武蔵名勝図絵には、「神恵を願うもの常に絶えずして次第に繁昌せり」と記されている。

上　神
今熊山山頂にある

道　標

神々を奉る祠

標　柱

信者から寄贈された石碑

滝へと続く河原

急な九十九折りを下る

⑥金剛の滝

今熊山の北側に、八王子市内では有名は「金剛の滝」がある。

今熊山山頂から一・六kmあまりの金剛の滝を目指す。奥社を出ると急な下り坂になる。第一の難所で、九十九折の道が続く。ここを過ぎると暫く緩やかな坂になり、また急な下り坂になる。石車に足をとられない様に更に下る。枯葉が厚く道を塞ぎ、道幅が判らない。場所によっては四十cm程の道幅を歩かねばならないことになる。

山頂から数十分、以前の滝への道は通行止めのままであるが、もう少し下ると金剛の滝への道標がある。そこから河原まで、狭い最後の九十九折（七十度の急坂）だ。河原づたいに五分程歩くといよいよ金剛の滝である。V字谷の目前に落差四mの雌滝。隧道を抜けると落差一六mの雄滝がある。正に圧巻である。

滝の中程に四十cmほどの石仏金剛

像が建っている。像には「光明不動尊、慶応三年行者渡辺兼太郎建之同大垣藩、施主中瀬久次郎」と刻まれている。

江戸期には、全国から修験者（山伏）が修行のため集まったという。又、雄滝と雌滝の間にある石のトンネル（隧道）は、江戸時代後期に修験者が掘ったものと伝えられている。

以前、この辺りは谷が深く、水量も豊富であった。滝は威風堂々とし、滝壺は深くて水は澄んでいる。以前はヤマメやウナギも良く獲れたという。

「滝壺を濁らせると雨が降る」という伝説があり、渇水期には滝の下で雨乞いを行った記録が残っている。今では滝の下流は堰堤を設置したため、水量も減り夏には人も入れるようになった。しかし、急勾配の山道や河原を抜けて奥へ行くと静寂そのもの。秘境の趣が未だに残っている。

雌　滝

雄　滝

不動明王

隧道内の手鎖

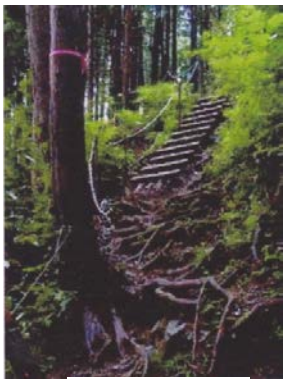
●金剛の滝を後に

金剛の滝を見た後、河原を五分程下り、八王子市とあきる野市の境を目指す。そこからがまた急な登り坂になる。ロープが片側に設置してあるが、道は狭く木の階段は滑りやすい。十五分程登る。

登り詰めたところは市の境。稜線、いわゆる尾根に出る。尾根道は比較的広く、「左広徳寺」「右小峰公園」「東京電力発電所」「金剛の滝」などの道標がある分岐点でもある。

分岐点から五十m程右へ歩くと、高さ五十cm、幅二十cmの石碑が建っている。百番観世音と刻まれている。

ちなみに広徳寺は、応安六年（一三七三）の創建。北条三ツ鱗の旗印、大銀杏、都天然記念物タラヨウやカヤの木等が有名な古刹。また、小峰公園も小峰神社、ビジターセンター等があり上下水道が完備された公園である。さらに緩やかな下り道を暫く行くと、変電所が見えてくる。その先が今熊野山道の三叉路である。



百番観世音

道　標

◎参考資料

・武蔵名勝図絵
・武蔵野歴史地図
・歴史と浪漫の散歩道
・八王子寺院めぐり　中島善弥著
・八王子発見
・新編武蔵風土記稿
・八王子物語　川口　實著
・歴史散歩辞典
・民族探訪辞典
・植物で見る万葉の世界
・八王子市史
・とんとん昔　菊地　正著
・とんとんむかしの会
・第十四号やまゆり
・郷土史　川口郷土史研究会
・今熊神社獅子舞保存会
・国土地理院地図
・八王子市郷土資料館資料
・八王子市地図
・八王子市観光マップ
・昭文社